

# ミナミに誕生! 市民が憩い、癒される“道頓堀川遊歩道” 「とんぼりリバーウォーク」

昨年12月、ミナミに、市民の新しい憩いの場が生まれました。

道頓堀川の両岸に遊歩道が伸びる「とんぼりリバーウォーク」は、戎橋から太左衛門橋間を爽快に歩けるウォーターフロントとして、もうすっかり定着しています。川沿いを散策すれば、以前より水がきれいになっていることも確認できて、まさに都会のオアシスのようです。

そこで今回は、オープンカフェや小型遊覧船も接岸する、この大阪・新名所をレポート。老若男女に親しまれる、都心の水辺のオアシスの魅力に迫ります。



レポーター / 芝岡 幸江



## 水都・大阪にふさわしい、 親水性の高いやすらぎ空間を創造

大阪は長い歴史の中で、川と産業・暮らしが深く結びついて発展してきました。大阪市域における河川面積の割合は約10パーセント。他の都市に比べても際立っており、水都・大阪といわれる所以がここにあります。その中で、道頓堀川は都心南部に残された貴重な川であるにもかかわらず、治水対策のため護岸が高上げされるなどして、市民の暮らしと隔たったものとなっていました。

今回で紹介する「とんぼりリバーウォーク」は、大阪市の道頓堀川水辺整備事業の一環である「親水性の高い遊歩道整備」を具現化したものであり、水辺のもつ“うるおい”や“やすらぎ”を街に取り戻し、沿川空間の環境を改善しようと計画されたものでした。戎橋から太左衛門橋の間の約170メートル区間の両岸に、約8メートルの幅を有したゆとりの空間が広がり、幅広い世代に親しまれています。また、この遊歩道の名称「とんぼりリバーウォーク」は、市民からの愛称応募により決定されました。



## 道頓堀クルーズも楽しめる ミナミの「新名所」

繁華街を抜けて、戎橋から階段で川べりに降りていくと、そこには新鮮な風景が。初めて間近で眺める道頓堀川は、ちょっと感動ものです。2段構造になっている遊歩道の上段は、美しい御影石舗装。そして下段は、ウッドデッキスペースに。温かみがあって、やさしさを感じます。所要所に設けられたベンチでは、子供連れやカップル、OLなどが腰をかけ、なごんでいます。遊歩道沿いのクレープ屋の店員さんに尋ねてみると、やはり週末・日の人出の多さは特別だそうです。遊歩道には小型遊覧船が接岸するので、乗船して道頓堀クルーズを楽しむのもいいですね。また、川沿いのカフェやレストランは、今回の遊歩道完成に合わせて、建物から直接遊歩道に出入りできる出入口を設けるなど、地域一体となって新しい街の魅力づくりに励んでいこうとする積極的な姿勢が感じられました。川を身近に感じながら、ここまでくつろげる環境が整っていると、嬉しくなりますね。そして、水面に明かりが美しく揺れる夜には、ムード満点のデートスポットに。昼間なら、南方向に通天閣がはっきりと確認できるという、今年完成した人気の観覧車からの夜景は特におすすめです。



## 水辺の穏やかな風景の創造と、 防災計画の一環として

今回レポートした道頓堀川の水辺整備事業は、最終的には道頓堀川の全川約2.7kmが整備区間となっています。耐震護岸計画の一環としてだけでなく、市民に親しまれる環境の創造をテーマに、今後も戎橋の西側、太左衛門橋の東側などの工事は進みます。さらに広がる遊歩道で、ミナミの魅力はより一層増していくはず。

江戸時代、自ら私財を投じて東横堀川と木津川を結び、道頓堀川を開削した安井道頓も、「とんぼりリバーウォーク」がこうして市民に親しまれている様子を見て、きっと安堵していることでしょう。



### 「とんぼりリバーウォーク」へは…

交通：大阪市営地下鉄御堂筋線「なんば」駅下車徒歩5分、  
「心斎橋」駅下車徒歩10分。

